

焼き板

1 活動の目的、効果

(1) 体験活動上の効果

◎自主性・創意工夫 ○課題克服・達成感

(2) ESDの課題解決に必要な7つの能力・態度

⑥ つながりを尊重する態度

人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度

2 活動の詳細

概要 (セールスポイント)	杉板を焼き、みがいたものに思い思いの絵や文字を入れて、木目のきれいな表札を作ります。 ヒートンとチェーンがセットされていますので、ドア飾りなどにすることも可能です。 薪割り、火おこしを行い、板を焼くバージョンとガスバーナーで板を焼くバージョンのどちらかを選ぶことができます。				
諸条件	実施形態	原則自主活動 (薪割、火おこしのみ交流の家職員が指導)		提出書類	食事・教材注文票
	必要経費	特定研修活動実施経費(1人50円) +材料費(1人300円)		所要時間	3時間程度(ガス使用時は2時間程度) 絵具を乾かす時間は含まれていません。
	活動場所	野外調理場、研修室		対象・人数	最大96人※作業場所により最大人数変更
	時期	通年	事前下見	不要	天候
準備するもの	青少年交流の家で貸し出し可能な物			団体に準備する物	
	<ul style="list-style-type: none"> 筆 ・パレット ・のこぎり ・たわし 新聞紙 ・火ばさみ ・鉈(なた) ・皮手袋 ガスバーナー(カセットガスは持参) 			【参加者】・絵の具 ・マジック ・軍手 等 【指導者】・焼き板セット※売店で購入 ・薪(30名程度の場合1箱550円) 又はカセットガス ※カセットガスは、1班(4~6人)に1本程度	
役割分担	青少年交流の家職員が行うこと			団体の引率者が行うこと	
	1 道具の準備をし、引率者(担当者)への説明を行う(活動開始30分前までに) ① 貸出物品について ② 活動の進め方について ③ 安全管理について ④ 活動後の片づけについて 3 薪割、火おこしの指導を行う。 4 貸出物品を受け取る			1 交流の家職員から説明を受け、貸出物品を受け取る(活動開始30分前までに) 2 売店で材料を購入する 3 準備から片付けまでの指導を行う ※薪割、火おこしの指導は交流の家職員と一緒に 4 貸出物品を返却する	

3 活動のふりかえりのポイント

視 点:「楽しんで、仲間と協力して活動することができたか。」

発問例:「出来上がった作品について、頑張ったこと、工夫したことなどを班で発表しましょう。班のメンバーは、友達の作品や、作業中の様子などの、自分が気づいた『ナイスポイント!』を伝えましょう。」

4 SDGsで目指す姿

		12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようになる。 自分で作った作品に愛着を持ち、大切に長く使うようになることをとおして、身の回りにあるものも同じように大切に使う姿。
--	---	--

5 その他

- 引率者は事前に以下の役割分担をしておいてください。
○全体指導(1名) ○火担当(2名) ○煤落とし、磨き担当(1~2名) ○着彩担当(1~2名)
- 焼き板の作り方については、動画を作成しています。(8分程度)
事前に視聴していただくと当日の活動がよりスムーズになります。



<https://youtu.be/Kv7rcyzUIMI>

焼板づくり（火おこし編）

材料・道具・用具



- 板 ・ ヒートン ・ 軍手
- 糸のこ ・ のこぎり
- ラジオペンチ ・ タワシ
- 雑巾 ・ 絵の具セット
- マジック・火ばさみ
- 薪・なた／ガスバーナー
- 皮手袋

- ① 板の形を変える場合は、輪郭をマジックで書く。



した が き ちゅうい
【下書きの注意】

- かたち しゅう 形は自由。
- できるだけおおきくふとく大きく太く。
- 細かくしすぎると難しい。

② ^{よぶん}余分なところを^{いと}糸のこ、または
のこぎりで^{きる}切る。



【^{きる}のこで切るところ】

- **曲線難しいので注意。** ^{ちゅうい}
- できるだけ余白（^{よはく}切る部分）が少ないほうがよい。

③ 薪割り、火おこしをし、板に焼き目をつける。



【焼き目の付け方】

- **どこまで焼くかは、個人の好み。**
- 薄めに焼いて、木目を楽しむもよし。
- しっかり焼いて、変化を楽しむもよし。

- ④ たわしでこすり炭を落とし、
雑巾(新聞紙)でこすってつやを出す。



【ポイント】

- ここで、炭を落としておかないと、
そのあとの作業の中で、手が黒くなっ
てしまいます。

- ⑤ 板に絵や文字をかく。



- ⑥ ヒートンをつけ、くさり^{とおす}を通す。



- ⑦ かたづけ・そうじ

※「来た時^{きたとき}よりも美しく^{うつくしく}。」

- ② ^{よぶん}余分なところを糸のこ、または
^{いと}のこぎりで切る。



【^{きる}のこで切るところ】

- **曲線難しいので注意。** ^{ちゅうい}
- できるだけ余白（^{よはく}切る部分）が少ないほうがよい。

- ③ 板に焼き目をつける。



【焼き目の付け方】

- **どこまで焼くかは、個人の好み。**
- 薄めに焼いて、木目を楽しむもよし。
- しっかり焼いて、変化を楽しむもよし。

- ④ たわしでこすり炭を落とし、
雑巾でこすってつやを出す。



【ポイント】

- ここで、炭を落としておかないと、
そのあとの作業の中で、手が黒くなっ
てしまいます。

- ⑤ 板に絵や文字をかく。



- ⑥ ヒートンをつけ、くさりとおすを通す。



- ⑦ かたづけ・そうじ

※「来た時きたときよりも美しくうつくしく。」